

英語であれこれ 第5回



ハリーポッターの中のラテン語 Latin in Harry Potter

英語の多くはラテン語が基になっています。ラテン語は数千年前のローマ帝国時代に使われていた言葉です。今日、ラテン語を日常会話で使う人はいませんが、今でも歴史や古代の遺産とつながりがあります。だから、ハリーポッターの作者J.K.ローリングは、よく魔法の呪文にラテン語を使っているのです！

English is largely based on Latin, the main language spoken in the Roman Empire thousands of years ago. Although no-one speaks Latin as a first language today, it is still associated with history and ancient heritage: that is why J.K. Rowling, the author of the Harry Potter books, often used Latin words for magic spells!

「エクスペクト・パトローナム」が良い例です。これはディメンターと呼ばれる吸魂鬼から魂を守るために守護霊を呼び出す呪文です。「パトローナム」は守護者や保護者を意味するラテン語で、「エクスペクト」は「エクスペクタレ」という何かを望んだり待たせたりするという意味の動詞です。というわけで、「エクスペクト・パトローナム」は「私は守護者を待っている」と訳せるでしょう。

ほかにも、ローリングはラテン語のように聞こえる言葉を作り出していて、そのおかげで呪文は古く、神秘的に感じられるのです！例えば、物を空中に浮かばせる呪文はまるでラテン語のようです。(ウィンガーディアム・レヴィオーサ)

こういう例においては、英語が母語の人にとって、ラテン語の響きは呪文を目立たせる効果があります。ラテン語は呪文を古く、儀礼的に、そして大昔とつながっているように感じさせるのです。



とある呪文は、面白い対比を生み出しています。それは「アバダ・ケダブラ」という死の呪いです。「アバダ・ケダブラ」はヘブライ語で、昔のユダヤ人の言葉ですが、今ではイスラエルで使われています。その意味は「この物を破壊せよ」ということです。この呪文は、ハリーポッターの世界では最悪の呪文とされており、ローリングがこの呪文にラテン語っぽいフレーズを使わなかったのは興味深いところです。おそらく、彼女がヘブライ語を使ったのは、ヘブライ語が英語とは異なる言語なので、英語を使う人にとってそれほど身近に感じなくてすむからでしょう。ラテン語の響きは壮大で印象的である一方、ヘブライ語の響きは奇妙で神秘的に聞こえるものです。

ローリングの古代語の使い方は、ハリーポッターの物語世界を作り上げるために、彼女がどれほどの労力をつぎ込んだかをよく表しています。でもこのことは、英語を話す人は、昔の言葉が今の自分たちの言葉と関係があるように感じる傾向があることを示す面白い例だともいえるでしょう。

広野文芸欄

季節を詠む 時流を読む

広野町新春句会 猪狩行々子選



日溜りに枯葉集むる風のあり
風聞いて炬燵に潜る小犬達

悟 峯

嵌まりある大人のぬり絵日脚伸ぶ
福は内避難の隣家も包みけり

遠藤 健太郎

初夢の故郷の山友の顔
街あかりちらちら点る夕しぐれ

宮下 純子

大根の白の際立つぼたん鍋
最先端の機器を並べて冬座敷

中野 まち

枯園や黄の薔薇一輪王座占め
風花や子らの暮しを思ひをり

遠藤 恵美子

独り居の早き夕餉のおでんかな
迷い猫暫し安らぐ日向ぼこ

木幡 綾子

寒波来る予報聞きつつ厨事
雪の原突き抜け磐越道走る

塩 史子

初雪や阿武隈川の黒黒と
ストーブに薪足し歌の湧いてくる

西山子

雪中の列車の汽笛頼もしく
子らの声精気溢るる寒稽古

暁 月

会員募集のお知らせ

広野町俳句会では、会員を募集しています。俳句に興味のある方大歓迎です。俳句を通してみなさんと交流してみませんか。詳しくは、下の連絡先までお問い合わせください。

問 広野俳句会 ☎090-7063-1676

広野町がんばっ会が餅つき

平成26年12月21日（日）、広野町がんばっ会が広野町東下地区集会所で餅つきをしました。参加したのは小学生以下の子ども約20人を含む約50人で、つきたての餅にきな粉、大根おろし、納豆など好きなものをつけて、豚汁とともに味わいました。餅米が蒸しあがるまでの時間を利用して木工教室も行い、巣箱やプランターを作りました。



つきたての餅をほおぼる子どもたち